

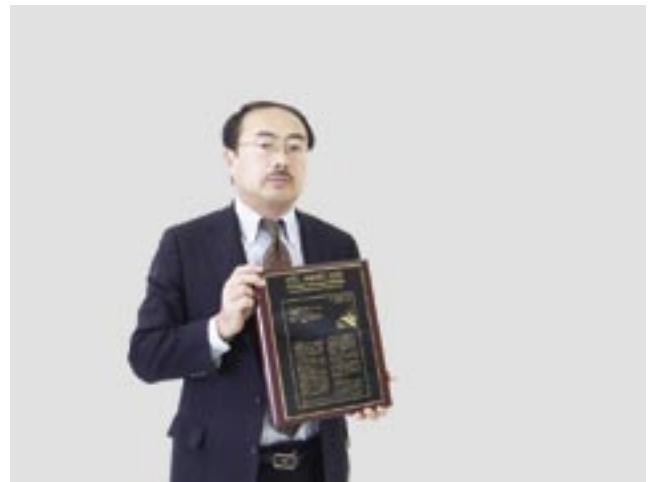
## 寒地技術シンポジウムにおいて寒地技術賞を受賞

平成17年12月5日（月）～7日（水）、札幌市コンベンションセンターで「第21回 寒地技術シンポジウム」が開催されました。

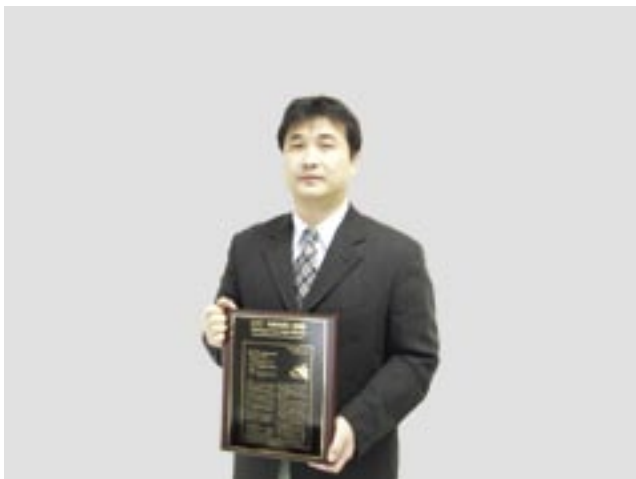
当該シンポジウムで、前回（平成16年度）の第20回寒地技術シンポジウムにおいて発表した論文が寒地技術の向上に著しく寄与すると評価され、交通研究室浅野室長、港湾研究室木岡研究員に寒地技術賞が授与されました。

交通研究室浅野室長が発表した「ロジックモデルによる脱スパイクタイヤ政策の政策評価」が寒地技術賞（計画部門）を受賞しました。

内容および選考理由は、「著者は、脱スパイクタイヤ政策の政策評価にセオリー評価の成果物となるロジックモデルを作成し評価を試みたものである。その結果、帰着便益における環境改善評価は住民の意識調査から考えるとかなり過小評価ではあった。これは政策評価の困難さを示すと同時に、追跡できる指標の継続調査と官民によるデータの共有が必要であることを示した」というものです。



交通研究室 浅野室長



港湾研究室 木岡研究員

次に、港湾研究室木岡研究員が発表した「オホーツク海における実用的な海水下面形状のシミュレーション手法」が同賞（学術部門）を受賞しましたので、その内容を紹介します。

本研究は、北海道沿岸において超音波センサーなどを用いた流水の動きや喫水深についての観測データの分析結果、およびその活用方法について論じたものです。本研究の特徴は、受賞の選考理由でもありますが、極めて複雑な流水下面形状をわずかな統計量に集約可能であり、その集約された情報量のみを用いて、流水下面形状を容易にシミュレーションできる手法を構築した点です。本成果は、氷海域における万一の油流出事故の際における氷下での油の拡がり・漂流予測、海水と構造物の干渉時の挙動解析や水荷重推定、あるいは構造物表面での磨耗量推定等に必要の入力条件や境界条件としての活用が期待されています。

「共著者：山本（港湾研究室）、本間（北海道開発局）、先川（北海道開発局）、堺（岩手大学）」